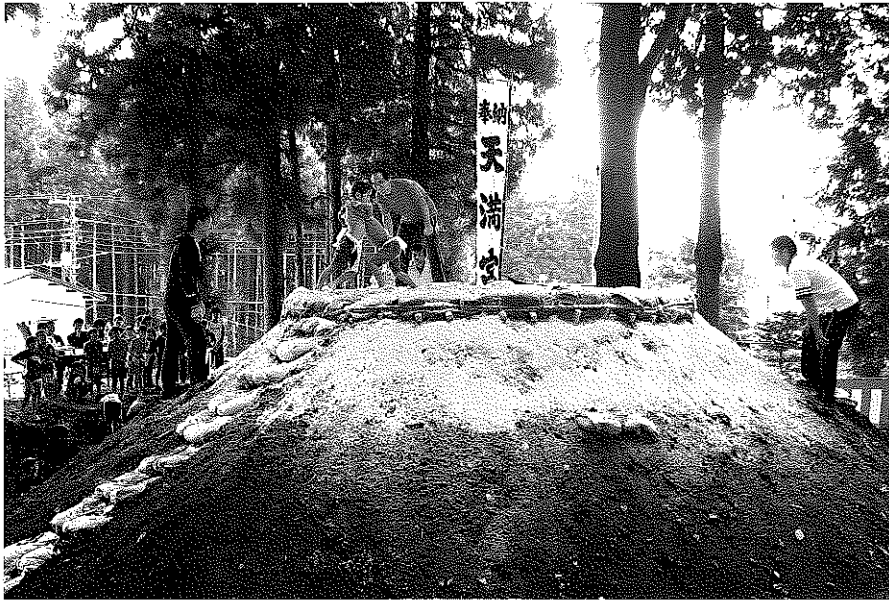


かおく

神道青年会



第六回「鎮守の杜」写真コンテスト

最優秀賞（静岡県神道青年会会長賞）

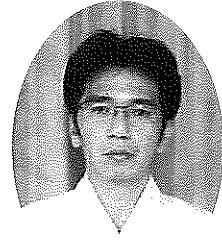
牧野 士郎「奉納 子供すもう」

目次

- 一、会長挨拶 一ページ
- 一、福祉育成委員会より 一ページ
- 一、六十周年記念事業完了奉告旅行 二ページ
- 一、事業委員会廃止について 三ページ
- 一、活動報告
 - ・第十八回こども参宮団 三ページ
 - ・米作り事業 四ページ
 - ・第六回「鎮守の杜」コンテスト開催 五ページ
- 一、各地区報告 五ページ
 - ・ 東部地区 六ページ
 - ・ 東部地区教養研修会 六ページ
 - ・ 神社紹介「伊古奈比咩命神社」 七ページ
 - ・ 中部地区 七ページ
 - ・ 中部地区県外一泊研修会 七ページ
 - ・ 神社紹介「敬満神社」 八ページ
 - ・ 西部地区 八ページ
 - ・ デジタル紙芝居 八ページ
 - ・ 大寒祓 八ページ
 - ・ 神社紹介「息神社」 九ページ
- 一、神職身分二級昇進者の御紹介・会員動静 九ページ

会長挨拶

会長 龍尾神社 龍尾 重幸



昨年七月、矢田部盛男前会長より会長職を引継ぎ、一年が過ぎました。神道青年会の諸活動につきまして、神社庁長様を始め、役員の皆様、宮司様、諸先輩方には種々御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この一年間を振り返ってみますと、特に本年は、引継いだ周年事業をかたちにしようとしてより継続となっております。記念事業の完遂に向けての活動、これに端を発した継続事業等、様々なことを体験させて頂きました。

五月に六十周年記念誌を刊行し、皆様のお手元にお届け

すると共に、五月十九日には神宮の大前へ記念事業完遂の奉告参拝をし、本会ホームページについては移設・整備を進めているところであります。

また、周年事業を期に継続となった『米作り』事業も第三回目を迎え、今年も東部地区が担当になり、御殿場にて根上様の御協力を得てイセヒカリの栽培をし、天候不順ながらも豊かな稔りを得たとしております。今後、各地区が担当となり、年毎に県内で実施される予定であります。

さて、諸先輩方が続けてこられた事業委員会ですが、今の税務事情等により継続していくことが大変困難な状況になり、役員会にて協議の結果、今期をもちまして閉じさせて頂くこととなりました。代々の諸先輩方が大変御苦勞をされ、継続してきた事業を終了する結果になり、大変心苦しい限りではありますが、

何卒御理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後は、事業委員会は新しく会員相互の研鑽と教養を培うべく、そして諸先輩方との交流を深める為に、研修・親睦会を企画運営する委員会へと発展して参ります。

六十一年目を迎え、「一人一人の力は小さいが、その力を集結することにより、大きな力を生み出すことができる」と、戦後の混迷する状況下で青年神職として神社界の護持復興にあたった黎明期の先輩諸兄の精神と行動力に今一度思いを致し、地に足をつけ会員一丸となつて原点到立ち返り、一つ一つの活動に邁進していく所存でございます。皆様には、より一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせて頂

福祉育成委員会 活動予定

- 一、こども参宮団への助成一、外貨コイン・古切手の収集、ユニセフ等へ寄付
- 一、清掃活動・福祉研修等を含む活動

前に掲げてある「外貨コイン・古切手の収集」に関しては、ユニセフが古切手を取り扱わなくなった為、他のNPOに寄付をするよう検討中に付、引続き古切手の収集をお願い致したく、また、外貨コインは従来通りユニセフへの寄付を行い、県内神社の御理解と御協力を得て、昨年度も非常に多くの外貨を集めることが出来た。日本ユニセフ協会からも、当会の活動に対して、受領証を兼ねた礼状を頂いており、これを尚一層の励みとしたい。

ホームページ移設の御案内

当会ホームページを左記のアドレスに変更致しました。

<http://www.shizuoka-jinjacho.or.jp/sss/index.htm>

「創立六十周年記念事業完了に際し神宮奉告参拝」

実行委員長 三嶋大社 矢田部 盛男

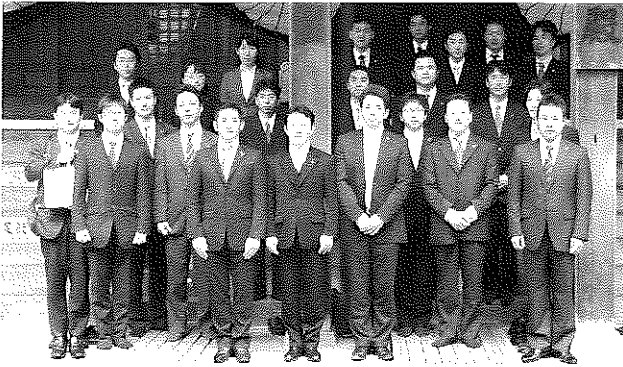
平成二十年より二年間に亘り、「和」の信仰の原点を日本の未来へを主題に掲げ、展開して参りました創立六十周年記念事業が、同記念誌の刊行、配布を以て無事に完了致しました。

中でも主体事業でありました「米作り」では、会員の思いがこめられたイセヒカリの初穂を、神宮神嘗祭へ御奉献申し上げました。

斎庭の稲穂を授かり、年ごとに秋の実りを大御神様にお供えて、命の営みを感じする国民性こそ、信仰の原点ではなかったかと改めて気づかせて頂いた、意義深い事業となりました。



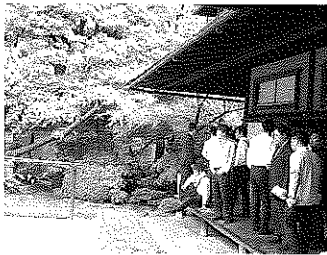
その成果を会員相互に確認し、平成二十二年五月十九日、会員二十三名にて内宮大御前において特別参拝、神楽殿で事業の完了を奉告、今後の会の発展とを祈願致しました。



「米作り」事業はその後、龍尾会長のもと年間の継続事業として承認され、昨年の西

部地区に引続き、本年は東部神道青年会主管にて、御殿場市の神饌田でイセヒカリの栽培が行われました。

その精神が、初だねと共に当会の将来へと続き、新たな「和」となることを願ってやみません。



第十八回

「子ども参宮団」報告

府八幡宮 内山 卓哉

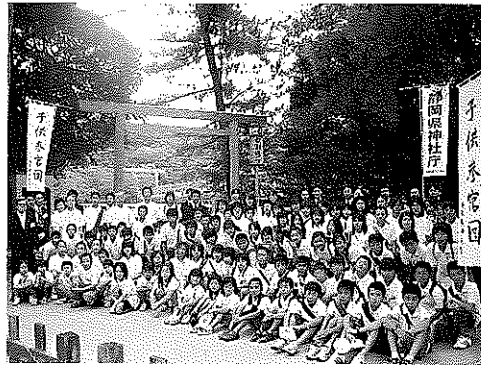
去る平成二十一年八月十九日（水）～二十日（木）にかけて「第十八回子ども参宮団」が、村上県神社庁教化委員長が団長となり、龍尾会長以下奉仕者二十三名の協力のもと、子供九十四名大人六名の参加を得て開催された。

当日は天気もよく、県内各地からバスにて刈谷S.A.に集まり、団長と会長が挨拶、注意事項を述べ、各チームリーダーを紹介して結団式を行った。

一行はそれぞれバスに乗り込み、鈴鹿サーキットへと向かった。順調に目的地に到着し、日差しが強い為、あらかじめ熱中症対策にペットボトルのジュースを配った。それが良かったのか園内では特に体調不良等の問題もなく、子供達は楽しい時間を過ごしたようだ。

夕刻の外宮においては、手水をした後、各班隊列を組み、木々の重なり合う音、蝉の鳴き声と参道を歩く時の玉砂利の音、神

宮の独特の雰囲気を感じながら、無駄話も少なくチームリーダーを先頭に静かに社に向かい参拜、神宮職員から目に見えない神様の優しさについて話を頂いた。

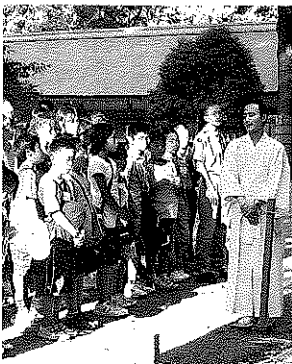


宿泊先の神宮会館では、夕食時に会員の奉仕者より外宮での話を踏まえつつ、食べ物の有り難さ、食事への感謝の心を忘れずに食す事を伝え、食前感謝、食後感謝を全員で奉唱し食事をした。子供達の中には食べきれずに時間の掛かる子もいたが、それでも皆残さず食べる事が出来たようだ。食後には、講堂にて神宮の御厚意により、神宮では神様への食事は火を起こすこ

とから始まり、一つ一つ丁寧に作られていると説明を受け、素朴に手を尽くす事は心を尽くす事に繋がるといった話を聞いて、火鑽体験を行った。子供達は大変興味を示し、積極的に参加した。その後、参拝作法・手水作法・禊指導を行い、一日目の日程を終了した。

翌二十日には、朝六時に起床し、人通りの少ないおかげ横丁を通り、五十鈴川へ禊に向かった。朝の空気が澄んだ川のほとり、鳥船行事を行い、静けさの中に子供達の熱気と声だけが鳴り響いた。

心身とも清められた子供達は、いったん神宮会館に戻り朝食をとった後、宇治橋をわたり内宮へと向かう。神楽殿にて御神楽奉納、内宮前の階段にて写真撮影をして、御垣内参拝を行った。



参拝後、おかげ横丁にて自由行動、各自新しく出来た友達と楽しく買い物をしている姿が印象的であった。岩戸屋にて作文を書き、昼食を取った後、鳥羽より伊勢湾フェリーに乗って恋路ヶ浜にて下船、場館内にて解団式を行い、村上団長より修了証を受け取り、無事終了する事が出来た。

事業品取り扱い終了のお知らせ

これまで御利用頂きました事業品の取り扱いを、事業環境の変化を鑑み、平成二十二年六月末日をもって終了とさせていただきます。

事業品が課税対象となる可能性、頒布数の減少、在庫管理場所の確保が難しい等が主な理由です。

事業品の取り扱いを開始し、会の運営のために御尽力された諸先輩方には大変申し訳なく、また日頃御利用頂きました皆様には、御迷惑と御不便をおかけする事と相成りましたが、御理解の上、何卒御了承下さいますようお願い申し上げます。

米作り事業

八柱神社 山口 哲央

昨年度の静岡県神道青年会六十周年記念事業として実施した「米作り」が継続事業となり、二十一年度も行うことになりました。お蔭様で天地の恵みと会員の御協力により、十一月に神社庁並びに県内別表神社に初穂を奉納することが出来て安心しました。

まず継続にあたり、どのように行っていくかを相談しました。作付面積は三百坪から九十坪程度へ減らすこと、お田植え祭、抜穂祭、新嘗祭を斎行すること、西部、東部、中部へと担当を交代すること、作業の分担などを決めて継続しやすく、尚且つたくさんの会員がこの米作りに参加出来るように考えました。

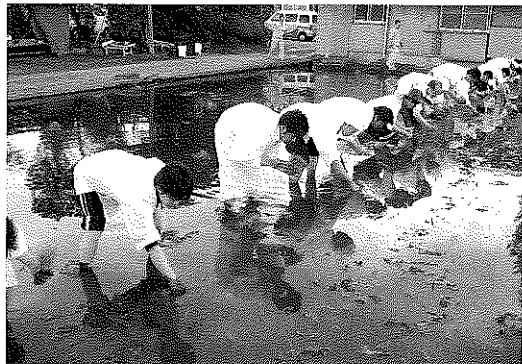
さて、五月のお田植え祭から始まりました米作りも、二年目ということもあり作業も順調に進み、稲の成長も旺盛で、改めて自然の恵みを実感しました。ところが、稲刈りも終

わり「はざかけ」という天日干しの途中の十月に、超大型台風が静岡県を襲いました。台風が通過し、急いで神饌田に行ってみると、見るも悲惨な状況で、「はざ」は倒れ、収穫した稲穂は強い風雨により田んぼに叩きつけられていました。すぐにかけなおし、その後、無事に収穫出来ました。もし稲刈り前にこの台風が来ていたらと思うと、自然の力に震えました。

そして、次回は東部が担当で御殿場に場所を移して行います。静岡県は横に長く、富士山もあり、西と東では環境が大きく異なります。それぞれの地域の気候や稲の生育に合わせてこの事業を行うことに大変深い意味があると思います。稲は古くから日本で作り続けられ、今に到ります。今年

神饌田で収穫した粳種は、一昨年山口県神社庁から譲って頂いた粳種を二年間浜松の地で守り作ったもので、今度は御殿場へと繋いで行きます。米作りを通して、日本文化や精神はもろろん、この青年会

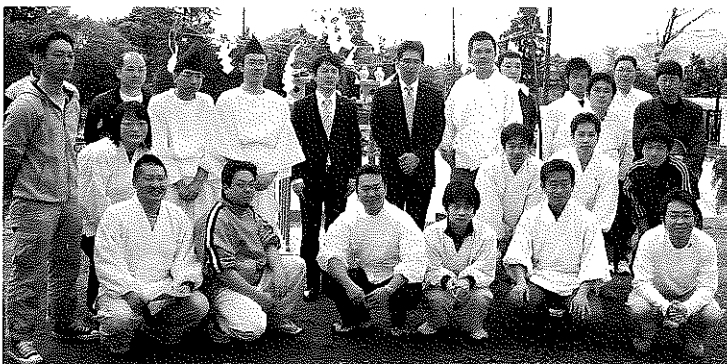
の和を次の世代へと伝えられたら幸せなことだと思います。



※ 本年の米作り事業は、東部地区が担当となり、御殿場市沼田の根上宮司御夫妻の御協力を得て、二畝の水田をお借りして実施することとなりました。

※ 五月十四日には、富士山を雄々しく仰ぐ神饌田において、お田植え祭が斎行され、龍尾会長を始め約三十名の会員、また御殿場農協組合長ほか来賓多数参列のもと、福井東部地区会長が斎主を務め、五穀豊穰

を祈り、その後会員がイセヒカリの苗を手植えしました。七月・八月には除草作業、案山子作り、十月六日には抜穂祭を行い、十月十五日の神宮初穂曳、また神社庁に新穀を奉納する予定です。経過については、神青会ホームページに掲載されますので、御参照下さい。



第六回「鎮守の杜」 写真コンテスト開催



「ふるさとのまつり」をテーマに募集した第六回「鎮守の杜」写真コンテスト（後援、県神社庁・富士フィルム㈱・静岡新聞社・静岡放送）の表彰式及び入賞作品展を、三月十二日の県神社関係者大会に併せ、静岡市民文化会館ギャラリーにて開催致しました。

一三〇点の応募作品はどれも力作で、審査も困難を極めました。十九点の入賞作選出に至りました。

入賞者十九名

- 最優秀賞（静岡県神道青年会会長賞）
裾野市 牧野 士郎（表紙）
 - 特別賞（静岡県神社庁長賞）
静岡市 山本 利和（写真①）
 - 優秀賞（静岡放送賞）
静岡市 鈴木 静子（写真②）
 - 優秀賞（静岡新聞社賞）
静岡市 望月 正晴（写真③）
- 入賞 十五名



写真①「暑い・熱いぞ・わっしょい」



写真②「楽しい仲間」



写真③「踊り奉納」



会場風景

東部地区報告

教養研修会報告

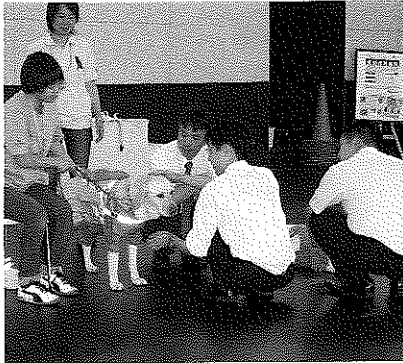
丸子神社 浅間神社

渡邊龍一

去る六月二十二日、東部神青年の教養研修会が富士宮市にて開催されました。大祓式間近で、また県の総会前日ということもあり、一時は開催も危ぶまれましたが、ありがたくも、十三名の参加者で研修することができました。

正午に集合、浅間大社を参拝後、第一講の会場である日本盲導犬総合センター「富士ハーネス」へ移動。ここは、オウム真理教富士山総本部跡地に建設された、盲導犬の研究は元より、その繁殖から訓練、引退後の余生まで一貫して携わる、毎日見学できる日本初の盲導犬育成施設であり、広大な施設を説明を受けながら案内して頂き、PR犬との触れ合い、また目の不自由な職員によるデモンストレーションの見学や、実際に体験学習などもさせて頂きました。「参拝者には盲導犬を伴った

方も見えるだろう。その時の接し方を理解しよう」との考えから企画されたこの研修ですが、視覚にハンデを持った方が安心して盲導犬を伴い生活する為には、まだまだ一般社会での認知度は低い上、盲導犬を希望する方に対して実際の盲導犬は全くなりが足りておらず、また一頭の盲導犬を送り出すまでにかかるトレーナーの負担や、厳しい訓練、施設運営の大変さなど、自分が思っていた以上に難しい現実があることを知りました。



その後、浅間大社に戻り、富士宮市富士山文化課の二又川氏より、第二講である「富士山と世界遺産」を受講。富士山の美しい自然を保全し、富士山文化

を後世に継承するべく、世界文化遺産に登録する上で避けては通れない問題点の一つ一つを、絶え間ない努力によって改善・解決し、一日も早く登録されることを願う取組と情熱に感銘しました。

この意義深い研修を無事に修了することができましたのも、富士山本宮浅間大社をはじめ、本研修に快く御協力下さいました各所の御配慮に依るものであり、ここに改めて感謝申し上げます。



神社紹介(東部地区)

伊古奈比咩命神社

鎮座地 下田市白浜(七四〇)

白濱神社の御祭神の三嶋大明神は、今から二四〇〇年以上昔、南方から海を渡り、伊豆の白浜

に着き、富士の大神様の許しを得て伊豆の土地を譲って頂きました。更に、お供の見目・若宮・剣の御子と、龍神・海神・雷神の助けを借りて十の島を造り、その島々に后を置き、中でも最愛の後である伊古奈比咩命と共に、美しい白浜に大きな社を造り、未長く暮らしました。現在は白濱神社の本殿一社の中に併せ祀っていますが、以前は本殿が二社あり、右側に三嶋大明神、左側に伊古奈比咩命が夫々仲睦まじく奉られていたそうです。

白濱神社の御例祭は、十月二十九日に行われ、前日に前夜祭・火達祭、後日御幣流祭・御夜祭が行われます。



中部地区報告

中部地区圏外泊研修会

神明宮 小澤 一徳

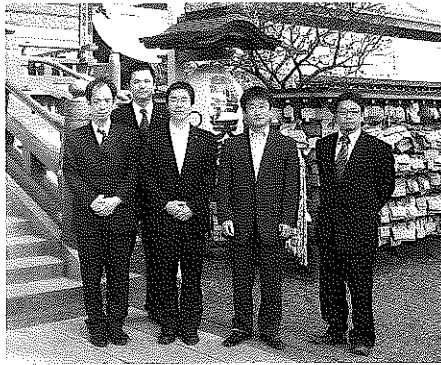
去る平成二十二年二月二十
二、二十三日、第二回中部
地区圏外一泊研修会を行いま
した。

二十二日、中部地区会員七
名は朝八時に静岡を出発し、
車を交替で運転しながら神奈
川・東京方面を目指しました。
川崎市の稲毛神社にて、厳肅
な気持ちの中、参拝させて頂
いた後、横浜中華街を散策し、
懇親会を開く事ができました。



一日目は、亀戸香取神社にて
正式参拝を行い、宮司様より
神社創建の由来や、現在の神
社運営の実態等、貴重な御高
話を賜りました。

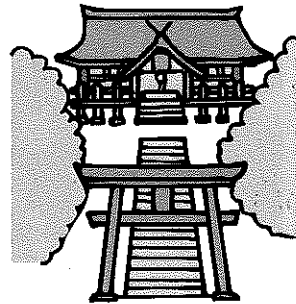
また、宮司様をはじめ、職
員の皆様方の手厚いおもてな
しには、会員一同大変感銘を
受け、自らの神明奉仕に役立
つ勉強となり、有意義な時を
過ごす事ができました。



その後、亀戸天神社に参拝
をさせて頂くに至っては、心
身共に浄化された想いをもつ
て鳥居をくぐった事もあり、
崇高なる精神で参拝する事が
でき、二日間を通して大変有
意義な研修会を終える事がで

きました。

この研修で得たものを自分
自身の奉仕に反映できるよう、
今後の精進の糧にしたいと思
います。



神社紹介(中部地区)

敬満神社

鎮座地 島田市阪本四〇五四―一

社伝によれば、垂仁天皇二
十六年の創祀にして、既に仁
壽三(八五三)年名神に預け
られ、貞観二(八六〇)年
には神階を正四位下に進階、延
喜式神名帳には遠江國の名神
大社に列せられている。当地
域における大社として皇室の
崇敬殊に篤く、又、徳川家康・

掛川城主山内一豊よりも社領
を寄進されている。明治六年
三月郷社に列せられ、昭和十
九年県社昇格の内示があつて
後、終戦を迎えた。

当社は紀元前に創祀された
古社であり、祭神の敬満神は
秦氏の始祖敬満王にて、開拓
開発、又あらゆる産業の振興
発展、渡航・交通安全の神と
して、崇敬篤い処であるが、
祭神の敬満神の御名からも、
「敬いて満たされる」と御神
意が示されている。



西部地区報告

デジタル紙芝居

秋葉山本宮秋葉神社

鬼頭 学

平成二十一年八月五日に、大歳神社で開催された西部地区教化研修会において、デジタル紙芝居を行った。

本来これは、西部地区の事業「お宮とこどもたち」の中で行っているものだが、教化委員会から研修会の時に演じてもらいたいとの依頼があり、「あまのいわと」「やまたのおろち」を演じた。研修会とはいえ、デジタル紙芝居が「親子で親しむ日本の神話」という主旨をもっているため、諸先輩方の前ではあるが、子供たちを前に演じているように行った。

西部地区教化委員長をはじめ、皆様方にかんがりの好評を頂き、今後の「デジタル紙芝居」が教化の一つとしての活動に期待を寄せられていることを感じ、我々も更なる充実に努めてゆきたいと思う。

大寒 禊

大歳神社 森田 教允

去る一月二十日午前七時、本年も恒例となりました大寒禊が天竜川にて執り行われました。

今回で二十三回目となる本行事ですが、その目的は天竜川の清き流れに身を沈め、心身共に清めて、鍛錬する事でありませう。又、報道関係者も多数見受けられ、新聞、テレビ等メディアに取り上げられるため、教化活動の一環としての側面も併せ持ちます。

当日は天候にも恵まれ、気温も例年に比べ穏やかで、西部地区の会員の他、遠くは愛知県、静岡市と数多く参加者が集まりました。定刻となり真冬の寒空の下、鳥船行事を行い、天竜川へと入水、大祓詞を朗々と奏上し、再度鳥船行事後、厳かに終了しました。

身も凍るような冷水でありましたが、心身が引き締まり、清々しい心持になりました。改めて今年一年神明奉仕に一意専心する決意を固めた一日になりました。



神社紹介(西部地区)

息 神 社

鎮座地

浜松市西区雄踏町
宇布見八六九〇一

創建は文武天皇慶雲二(七〇五)年、志那都比古神・志那都比賣神の二柱を勧請し、延喜式神名帳にその記載が見られる。「息」は「オキ」と読むが、社号は様々に変遷し



ており、県指定有形文化財の神宝の獅子頭にも「息大明神」安七(一三七四)年」と裏銘、文亀元(一五〇一)年の棟札には「大明神」、大永七(一五二七)年の棟札には「米大明神」と称された時代もあった。明治六年に郷社に定められ、明治二十八年に旧称「息神社」復帰し、現在に至る。

この社に寄せる信仰は厚く、徳川家康は浜松城入城後、その子秀康の開運を祈願して息神社をその産土神に定めるなど、御神徳の数々が見える。

祝 神職身分二級昇進

田方支部 三嶋大社 権禰宜	田方支部 近藤 巨 様	田方支部 天地神社 宮司	田方支部 枚寄 賢 様	田方支部 葛見神社 宮司	朝日 昌夫 様	富士支部 富知六所浅間神社 権禰宜	大鳥居 素 様	志太支部 大井神社 権禰宜	森 昌彦 様	周智支部 小國神社 権禰宜	小国 広徳 様	周智支部 八幡神社 宮司	宮脇 経夫 様	磐田南支部 矢奈比賣神社 禰宜	久野 隆 様	磐田北支部 白山神社 宮司	高氏 元三 様	浜松支部 蒲神明宮 宮司	富田直次郎 様
------------------	----------------	-----------------	----------------	-----------------	---------	----------------------	---------	------------------	--------	------------------	---------	-----------------	---------	--------------------	--------	------------------	---------	-----------------	---------

会員動静 (順不同)

★ 新入会員

坂路 禎己
田方支部 来宮神社 出仕
昭和六十二年生 福島県出身

鈴木 雅史
富士支部
富士山本宮浅間大社 権禰宜
昭和五十四年生 愛知県出身

小林 伸匡
富士支部
富士山本宮浅間大社 出仕
昭和六十二年生 長野県出身

海野 貴嗣
静岡支部 久能山東照宮 出仕
昭和五十一年生 静岡県出身

瀧本 克俊
静岡支部 丸子稲荷神社 禰宜
昭和五十三年生 宮城県出身

横山 弥史
榛原支部 厳室神社 宮司
昭和五十九年生 静岡県出身

菅沼 明人
小笠支部 龍尾神社 出仕
昭和六十二年生 静岡県出身

村瀬 環

周智支部
秋葉山本宮秋葉神社 権禰宜
昭和五十九年生 三重県出身

森月 俊雄

磐田南支部 府八幡宮 権禰宜
昭和六十三年生 静岡県出身

本郷 由希也

浜松支部
五社神社 諏訪神社 権禰宜
昭和六十一年生 愛知県出身

★ 結婚

浜松支部 五社神社 諏訪神社
吉田光延・瑠夏 夫妻
平成二十一年六月二十一日 挙式

田方支部 天地神社
枚寄 淳・典子 夫妻
平成二十一年七月四日 挙式

浜松支部 大歳神社
石津紀祥・みゆき 夫妻
平成二十一年七月七日 挙式

引佐支部 濱名惣社神明宮
鈴木栄男・あゆ美 夫妻
平成二十一年十二月二十日 挙式

田方支部 三嶋大社

土佐谷允・華枝 夫妻
平成二十二年二月二十日 挙式

浜松支部 四柱神社

磐田南支部 六所神社

野中一樹・(是實)恵美子 夫妻
平成二十二年三月二十八日 挙式

周智支部 秋葉山本宮秋葉神社
木村英樹・典子 夫妻
平成二十二年五月十五日 挙式

★ 転出

外山 貴寛

平成二十二年三月三十一日付
富士山本宮浅間大社より福岡県へ

西塚 仁詞

平成二十二年六月三十日付
龍尾神社より愛知県へ

★ 退会

島津 昌規

静岡支部 静岡縣護國神社
平成二十一年六月三十日付

発行所 静岡県神道青年会
静岡市葵区柚木 二五〇ノ二
静岡県神社庁内
印刷所 三島印刷